

健全性の高い後継牛確保を目指した 新たな哺育育成技術の開発

乳牛では、乳生産性や長命・連産性に優れた能力を有する後継牛の確保が課題となっています。そこで、早期に受胎することが可能な十分な成長に加え、第一胃（ルーメン）の健全な発達を促し、健全性の高い後継牛を確保するための新たな哺育育成技術を検討しました。

哺乳期の配合飼料に木材から精製されたクラフトパルプを12%添加して飼養すると、下痢日数が減少し、ルーメンの健全な発達が期待でき、哺育期の健全性が高まる可能性が示唆されました。



写真1 クラフトパルプペレット
消化性が高く（可消化養分総量（TDN）約95%）、ルーメン内における発酵が穏やかであるため、エネルギー供給とルーメン安定効果が期待できます。

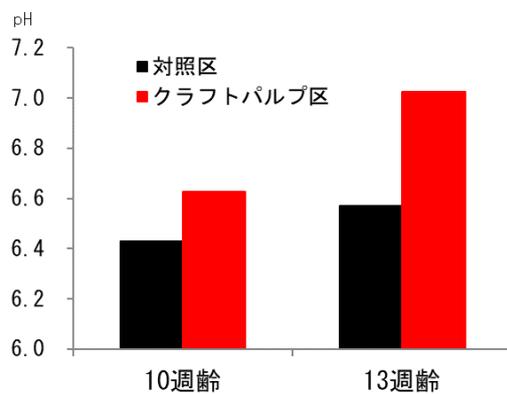


図1 胃液 pH
クラフトパルプ区では胃液 pH が高く、ルーメンの健全性向上が示唆されました。

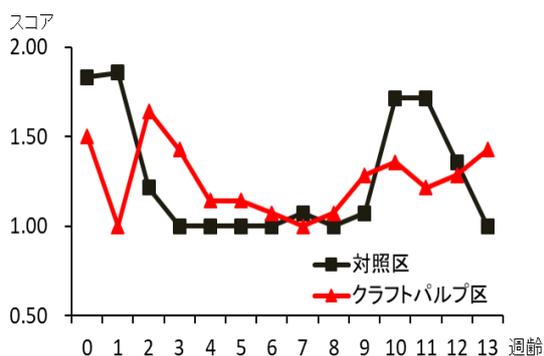


図2 糞スコア
クラフトパルプ区では糞スコアが安定的に低値で推移し下痢日数が減少しました。*糞スコア（0:硬い, 1:普通, 2:軟便, 3:下痢, 4:水溶性下痢）

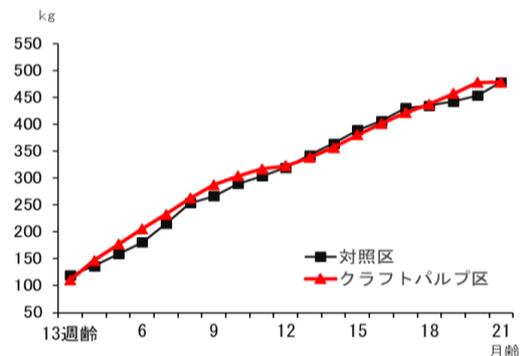


図3 13週齢からの体重の推移
クラフトパルプ区では12ヶ月齢まではやや高く推移したが、その後の成長は対照区と同等でした。